

誤嚥性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者(個人・団体)に愛と光を!!

連載

117

在宅医療奮闘記

私の思い出
平成7年より
在宅を開始した

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (67歳・内科)

訪問診療医は
初めて知った“愛の姿”に驚く。
「夕子とネコ」の会話。



ある日、Y.Hさん(69歳、男性)が、心原性脳塞栓症、アルコール性肝硬変、廃用症候群で、有料老人ホームに入所しました。Y.Hさんは、年齢に似合わず、合

併症による左片麻痺の寝たきり状態です。介護保険上、要介護④認定で、全ADL、全介助を要していました。

話は変わりますが、趣味がピアノという独身のS.Hくん(30歳代後半、自称シンガーソングライター)が、最近、施設の介護職員として就職しました。

その新人職員のS.Hくんが、おむつ交換を行おうと、Y.Hさんに体を寄せたところ、Y.Hさんの右手がスーッと伸び、S.Hくんの大事な部分をグッと握りしめたのです。そしてこう言ったのです。

「おれは夕子だけど、君は？」

「ぼくも夕子ですよ」すかさずS.Hくんは答えました。……???

いったいどういうことなのでしょう。あらためて、S.Hくんにその時の会話の内容を深く聞いてみました。すると、Y.Hさんは、私たちが来月行う「ノーマライゼーション音楽会」のリハーサルをしているゲイバーに、6年ほど前ですが約2年間ほど通ってくれていた大切なお客さまだったのだそうです。

私は、偶然という絆の不可思議に翻弄されながら四次元の空間を超えた“未来型過去現在主義”的な視座に、思わず酔いしれるのでした。

“気配”や“霊能現象”といった超常現象は、物理化学での世界では量子学理論などでその一部が解明されています。

今回のケースは、在宅医療の現場では以前のお互いの立場が異なり、また、再会の場所も異なるシリーズとしてよく出くわし経験します。例えば、35年前に先輩に連れて行かれたニューハーフクラブのホステスさんや、50年前頃に数回会ったことがある南予の遠縁の婦人などが、突然当院の在宅患者さんになったりしました。

ですから、今後も私は、精神の支柱をしっかりとし、守りながら、あらゆる未知の体験を受け止め、なるべく先入感なく自然体で患者さんに接し、質の高い介護医療を提供しようと思っています。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人達を救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



外来診療(かかりつけ医) 要予約
総合内科・漢方診療科

お医者さんが来てくれる 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(常勤8名、非常勤14名)
内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
(ベインクリニック科)
末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!



(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」
三世代の「絆」を表すキャラクターです。
イチゴはこもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 ☎089-933-3788 http://www.touzaiikai.jp/